

～ ヴァナッカム ～
வணக்கம்

スリランカ通信 No. 10 平成 29 年度青年海外協力隊 和田さとみ 環境教育



↑ Manchanthoduwai Saratha の生徒

வணக்கம்(タミル語: ヴァナッカム=こんにちは) **எப்படி சுகம்?**(エッパディ スガム? =元気ですか) 和田さとみ
 みます。日本は秋に入り、ずいぶん過ごしやすい気候になってきた頃でしょうか。今年は台風の影響で、日本各地被害が多発しているとのこと。岐阜の状況をニュースで追っています。スリランカ東部エリアは 10 月から雨期に入り、朝晩に台風並みの雨が降ります。日中は、カラッと晴れるのですが、朝雨が降ると、学校に生徒がこないことが多く、巡回が急遽キャンセルになることもしばしば。事前打ち合わせをしても、計画通りにいかないのはスリランカでよくあることです。日本と違う、時間の捉え方にも随分慣れました。(スリランカ人がいう5分は30分くらい?! 平気で遅れます。)周りの人々に生きる力や精神を鍛えられる毎日です。

JICA 環境教育セミナーの開催



当日の参加した生徒と教員 スリランカ JICA 環境教育ボランティア 環境教育ワークショップの様子
 スリランカには現在、環境教育という職種で派遣されている隊員が計 7 名います。そのうちの 6 名が 9 月 25 日に私の配属先である、スリランカ東部州のバットिकाロア市役所を視察しました。私の任地はスリランカの中でも、まだまだ発展途上中の地域です。この地区にこれほどの日本人が来ることはなく、巡回先の生徒や先生方にとって、とてもよい学びのチャンスになる、と考えました。そこで市役所の上司に企画書を提案し、隊員が視察に来るタイミングで「JICA 環境教育セミナー」と題した環境教育イベントを市役所のホールで実施することにしました。対象者はバットिकाロア市役所管轄内にある全 secondary school (日本でいう中高高校生が通う学校) 29 校から環境クラブ (※1) の選抜生徒 5 名 + 環境クラブの顧問 + 英語教師 (※2) = 各校 7 名 × 29 校 = 203 名、バットिकाロア県教育委員会、バットिकाロア環境局のオフィサーも来賓として招きました。このセミナーは、地元のメディアが取材に来て、ネットでもニュースになりました。生徒だけでなく、先生方にも環境教育を学んでもらうよい機会になりました。(掲載: Facebook DAN News: 9 月 25 日付)

JICA 環境教育セミナー概要

① オープニング

来賓紹介、JICA ボランティア自己紹介
 ↓ 各校 5 名の生徒に 5 色の名札を配布

② セミナー第一部

JICA ボランティア 5 名が環境教育のワークショップを 1 時間実施 (日本スリランカの
 ↓ ゴミ処理事情、3R、ゴミを減らすワークなど)

③ セミナー第二部

各校でディスカッション (①今日学んだこと
 ↓ ②学校の環境問題、③私たちの挑戦 3 箇条)

④ 各校 1 分間プレゼンテーション

①②③の内容について、ステージで 1 分間
 ↓ 話す。最後はクロージングセレモニーと
 先生方へのアンケートでセミナーは終了。

(※1) 環境クラブ…スリランカの学校には環境クラブという組織があり、所属生徒は校内清掃や環境イベントに参加する。

(※2) 英語教師…日本と違い、スリランカにはシンハラ語圏とタミル語圏がある。私の任地はタミル語圏。シンハラ語圏で活動するボランティアはタミル語が話せないため、英語で実施してもらった。生徒の理解を促すために、英語からタミル語へ通訳する目的で、29 校各校から英語の先生を 1 名ずつ派遣してもらうことにした。



↑ 各校ディスカッションの様子



↑ 自分の学校にある環境問題って何?



↑ 1 分間のプレゼンテーションの様子



↑ 自分の学校でできる挑戦を宣言

幼稚園教諭の免許課程（環境）プログラム



8月下旬に、スリランカ東部州幼児教育局から「幼稚園教諭の免許課程に「環境」というコマがあり、そのコマを担当してもらえないか」、という要請がありました。そこで、9月8日、9日の2日間、幼稚園教諭を目指す先生方を対象にした環境教育プログラムを実施しました。幼児教育局と相談して、1日目は環境教育啓発プログラムを中心に、2日目は廃材でつくる教具のアイデアの提供と、実践を中心に行いました。1日目、ずっとプログラムと一緒に幼稚園教諭を目指す先生方と過ごしていると、折り紙を教えてほしい、幼児とできるアクティビティなど、さまざまなリクエストが上がってきました。そこで要望に合わせて、臨機応変に2日目のプログラムは実施することにしました。環境教育は日本では自然と身に付くような教育の仕組みがすでに存在しますが、スリランカはそうではありません。子どもたちの指導にあたる先生方に今後、大いに期待したいです。



↑ ごみの性質について考えるワーク（基礎編）



↑ 廃材をつかった教材づくり（実践編）

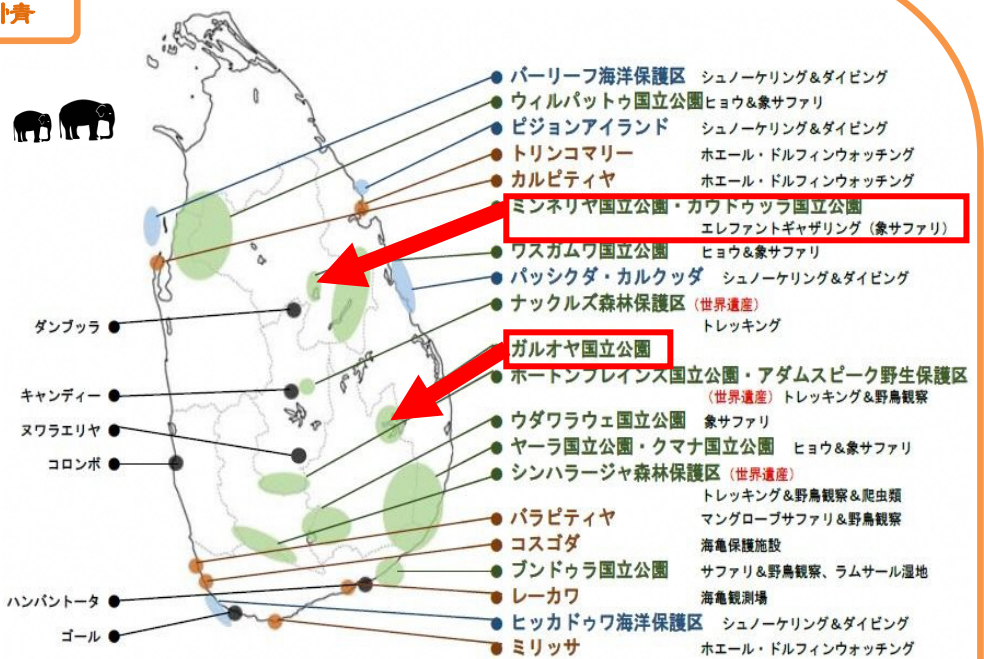


↑ プログラム後、製作した作品と共に記念撮影

スリランカの 国立公園とサファリ事情

国土のほとんどが緑で覆われているスリランカには、20を超える国立公園と100を超える自然保護区があります。豊かな自然の中には象をはじめ、多くの野生動物が生息しており、その多様性は想像以上です。なかにはスリランカにしか生息せず、日本では見ることのできない動物もいます。

今回、9月上旬に訪れたのは、ミンネリヤ国立公園。時期を選べば、かなり高い確率で野生の象に出会える国立公園です。ベストシーズンの7月～10月はこの地域の乾季にあたり、象たちが水を飲むために湖に集まります。これはエレファント・ギャザリングと呼ばれ、多い時には100頭以上の象の群れに出会えます。



また、9月下旬に訪れたガルオヤ国立公園は、スリランカ内で唯一、ポートでサファリができることで有名。



↑ サファリ ジープ 天井はオープン式



↑ たくさんの象に出逢えます



↑ ガルオヤはポートに乗って出発！



↑ ワニにも間近で遭遇！

国際協力に興味のある人は 独立行政法人国際協力機構



(JICA) <https://www.jica.go.jp/> をチェック！

スリランカ通信 No. 11 で会いましょう！